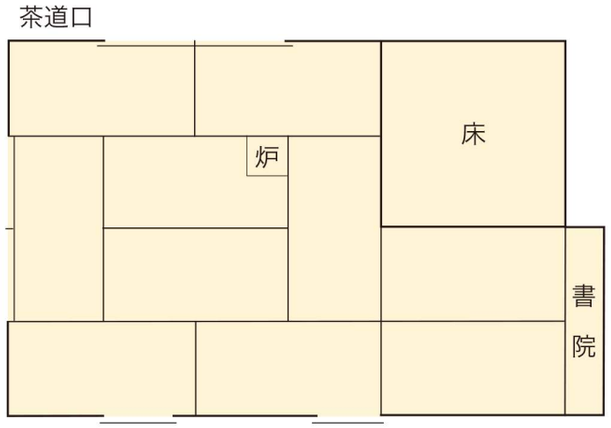
實性寺 表千家茶道の10月稽古

残月亭写し「聴松軒」での稽古

聴松軒

《聴松軒広間》



10月の稽古

〈5回に分けて〉

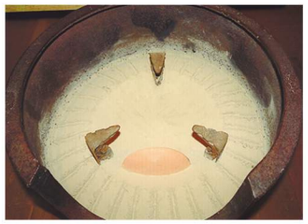
一、茶入飾
一、初炭
一、濃茶（仕服棗）
一、花月
一、薄茶

風炉

道具組

［掛物］ 尋牛斉「清風万里秋」
［花入］ 唐物写掛篭
花 「麒麟草」「吹上菊」「むくげ」「ホトトギス」
［釜］ 了々斉好刷目
風炉 鉄道安風炉
敷瓦 織部敷瓦
［水指］ 朝鮮唐津細

掛物


鉄道安風炉

唐物写掛篭

水指 朝鮮唐津細

［香合］ 桜樺細工菊紋様
炭斗 油竹
羽根 犬鷲
火箸 少庵型
灰器 青釉
灰匙 少庵型
［茶入］ 利休型中棗
仕服 二人静金襴
［茶碗］ 萩とりのこし写
替 京焼 菊桧垣文
〃 里見焼
［茶杓］ 寛道老師「野分」
［茶器］ 独楽中棗
建水 大脇差写
蓋置 竹引切り
［菓子器］ 青釉 松孤軒松葉
［干菓子器］ 箕
菓子 とらや「もみじ焼」
「栗蒸羊羹」「梢の秋」
「山路の菊」「大徳寺黒」
干菓子 「古代」「雪月花」
莨盆 一閑 櫛型
火入 香炉釉
莨入 タイ産
濃茶 「祥雲の昔」 柳桜園
薄茶 「珠の白」 柳桜園

茶杓 野分

茶器

箕

里見焼

京焼 菊桧垣文

萩とりのこし写

茶入

稽古の内容

中置における「炭手前」「濃茶」「薄茶」

◆初炭　鉄道安風炉のかきあげ灰
火箸を下ろさない。
炭斗を上座に寄せる。

◆茶入飾

◆仕服棗　男子の仕服棗

◆薄茶　広間の運びでも中仕舞をしない。

◆花月　初花、振花との違い。